

肉食恐竜

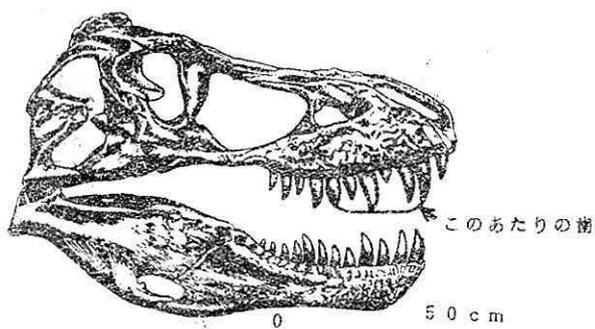
# ティラノサウルスの歯

恐竜ティラノサウルスの歯の標本とレプリカが新着標本で入ってきました。今月1日から科学文化センターの2階ロビーに展示する予定ですので、自然史展示室にある同じ肉食恐竜のアロサウルスといっしょにご覧ください。さて、今月はティラノサウルスの歯についてお話ししましょう。

## 史上最大の肉食恐竜

ティラノサウルスという名前は、どなたでも一度は耳にしていると思いますが、今から7000万年余り前から6500万年前まで現在の北アメリカに生きていました。体長14メートル、高さ6メートル、重さは7トンで、現在の

アフリカゾウよりもやや大きく、まさに史上最大の肉食恐竜です。いかつい顔つきや鋭い歯は、いかにもどうもうで最強のイメージがあります。名前も「暴君竜」といい、特に子供たちの間ではいちばん人気がある恐竜と思います。



## ティラノサウルス レックスの頭骨

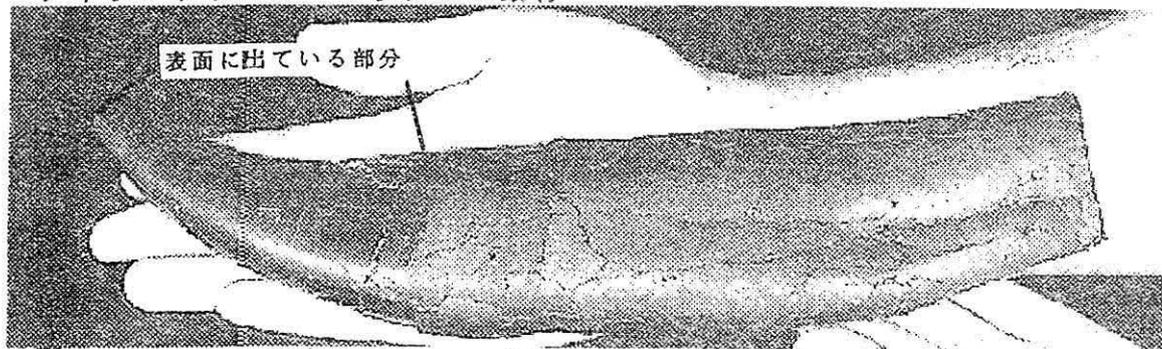


図1 ティラノサウルス レックスの歯（レプリカ）

表面に出ているところは光沢があり、骨の中に埋まっている部分はがさがさになっています。

この歯全体の約3分の2が骨の中に埋まっています。

## 歯の特徴から考える

ティラノサウルスの歯を見てください（図1）。この歯は上あごの中ほどの歯で、大きさが30cmほどもあります。私たちの歯と比べてみるとずいぶんちがっていますね。こんな歯を見ると、ティラノサウルスが映画などで見る恐竜のように、強力なあごで獲物をかみ、首をふって肉を引きちぎって丸飲みにして食べたことを容易に想像することができます。

でも、歯が大きいことや尖っていることだけでは能率よく肉は切れません。ティラノサウルスの歯には肉を切るためのひみつがあります。もう少し顔を近づけて歯を見てみましょう。その表面にはギザギザとしたのこぎりの刃のようなものが見えます。これは鋸歯（きょし）といいます。この鋸歯が肉の筋を切るために大切なはたらきをします（図2）。

さて、私たちが洋食を食べる時に使う、先がギザギザになっているステーキ用のナイフは、実はこの鋸歯のはたらきを応用したもののなのです。ところが、魚用のナイフは先がツルツルしていて、肉はほとんど切れません。

## おわりに

このようにティラノサウルスにとって、鋸歯はたいへん大切なはたらきをしていることがわかります。恐竜の歯を見ているといろいろな発見があります。皆さんも恐竜の歯を見て思った疑問や発見から新たな恐竜像に迫ってみてはいかがでしょうか。

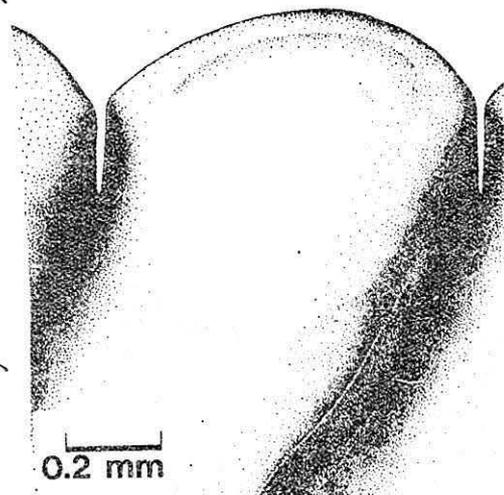


図2. ティラノサウルスの鋸歯  
一つ一つのギザギザの間は硬いかみそりのような刃になっていて、肉の筋が切れるようになっている。

（後藤道治）



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成6年11月1日